

漢字・語句	/40	合計
読解	/110	/150

検印

山月記

中島 敦

教科書

p.10
} p.23

漢字・語句の確認

1 傍線部の漢字は読みを答え、カタカナは漢字になおせ。

〈各1点〉

- (1) 豊^レ頰^ハの美少年
- (2) 再び東へ赴^ク
- (3) 官^吏となる
- (4) 勅^命を奉^ジる
- (5) 身^を翻^ス
- (6) 久闊^を叙^シした
- (7) 叢^の傍^らに立^ツ
- (8) 隔^てのない間柄
- (9) 憤^ろしい
- (10) 建物の礎^石
- (11) 自らを嘲^ル
- (12) 危^惧を抱^ク
- (13) 乏^{しい}才能
- (14) 懇^ろに挨拶^スする
- (15) 月^を仰^グ

- (16) ゾク^アク^な大官
- (17) 美^{しい}ヨウ^{ボウ}
- (18) 失^業シ^ヒン^キユウ^に苦^しむ
- (19) ヤミ^{の中}を歩^ク
- (20) 山^野をソウ^サク^ス
- (21) 壁^にシヨウ^トツ^ス
- (22) 超^自然^のカ^イイ^に驚^ク
- (23) 古^いキユウ^デン
- (24) 土^砂にマイ^ボツ^ス
- (25) 作^品の^{コウ}セツ^を問^ウ
- (26) シヨウ^ガイ^の思^い出
- (27) 詩^にシユウ^チャク^ス
- (28) クセ^{のある}人
- (29) 才^能をクウ^ヒス
- (30) シユウ^アク^な外^形

2 次の語句の意味を調べよ。

〈各1点〉

- (1) 焦^燥 (二〇・六)

- (2) 畏^怖 (三三・一)

- (3) 切^磋琢^磨 (二九・六)

3 次の語句の対義語を答えよ。

〈各1点〉

- (1) 非^凡 (二七・一)

- (2) 尊^大 (二九・二)

- (3) 怠^惰 (三〇・一)

4 次の語句を用いて短文を作成せよ。

〈各2点〉

- (1) 歯^牙にもか^けない (二〇・一一)

- (2) 息^をの^む (二六・七)

文脈を理解する

1 冒頭部分(二〇・1~9)から読み取れる李徴の人物像について説明した次の文の空欄に入る適当な語句を、本文中からそれぞれ指定の字数で抜き出せ。

〈各2点〉

非常に優れた才能に恵まれていたが、協調性がなく、人との「3字」を断ち、「7字」を遺すために役人の仕事をやめてまで「2字」にふけた。しかし、名は揚がらず、妻子の衣食のため、また自身の「9字」ことから、再度役人となった。

a	b
<input type="text"/>	<input type="text"/>
c	d
<input type="text"/>	<input type="text"/>

2 第二段落(二〇・1~二・13)の内容をもとに李徴が「ついに発狂した」(二・5)理由を説明せよ。

〈6点〉

3 「袁愴」(二・14)の人物像を七十字以内でまとめよ。

〈6点〉

70

4 「李徴の声が答えて言う」(三・15)、「叢中の声は次のように語った」(二四・1)のように、話す主体を「李徴」ではなく「李徴の声」とする表現には、どのような効果があるか。説明せよ。

〈6点〉

5* 「後で考えれば不思議だったが」(三・5)という表現の効果についての説明として最も適当なものを、次から選べ。

ア 現実にはありえないことだと読者に強調する効果。
イ 異常な事態を読者に受け入れられやすくする効果。
ウ 作者の考えをそれとなく読者に理解させる効果。
エ これは袁愴の夢であったことを読者に説明する効果。
オ この話が作り話であることを暗示する効果。

〈4点〉

6 「人間の心で……憤ろしい」(五・5)と感じている李徴が、自分の運命を受け入れようとして自身に言い聞かせている部分がある。本文中から六十字以内で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ(句読点を含む)。

〈完答4点〉

7 「これは恐ろしいことだ」(二五・9)とあるが、「これ」の指す内容として最も適当なものを、次から選べ。
(4点)

ア 自分がなぜ人間から虎になったのか、その理由が分かりかけていること。

イ 虎になりきってしまったえば、生き物を裂き食ろうしても一切後悔しないと考えられること。

ウ 自分が虎であることを前提に、ものごとを考えるようになりかけていること。

エ 生き物は輪廻の中にあるのであり、人が虎になり、また草木が人になるということ。

オ 人の心が還ってきた時、自分のしでかしたおぞましい所業に気づくこと。

8 「おれはしあわせになれる」(二六・一)の意味を、「しあわせ」に傍点が施されていることを踏まえて説明した次の文の空欄に、適当な語句を入れよ。
(各3点)

李徴は、a「」をなくしたb「」になりき

つてしまえば、自分の行為の残酷さも分からなくなり、しあわせになれるが、「a」をなくすることを、本心ではこのうえなく

c「」思っているという」と。

第四段落 (p.16 29~p.18 212)

9 李徴の詠じた詩(二六・6~9)の主旨として最も適当なものを、次から選べ。
(4点)

ア 虎になった今、人間の心は理解できなくなっている。

イ 自分の思いが獣の叫び声としてしか響かないのが悲しい。

ウ 妻や子のことを思いやる心のない自分がいかにも情けない。

エ 詩の才能がないので、良い表現ができないのがつらい。

オ 氣勢盛んな旧友に比べ、今の自分の境遇はひどすぎる。

10 「臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」(二九・7)と表現される心理を五十字程度で説明せよ。
(8点)

11* 「人間は誰でも……各人の性情だ」(二九・11)の解釈として適当でないものを、次から一つ選べ。
(4点)

ア 人間は誰でも、虚栄心や利己心という猛獣をもっていて、こ

れをよく制御しないと、身の破滅に陥る。

イ 人間は誰でも、自分に都合のいい勝手な心、つまり、猛獣を

抱えていて、これを上手く操っていかねばならない。

第五段落

ウ 人間は誰でも、「狂疾」の因子を大なり小なり備えているのであり、それから目を背けてはならない。
 工 人間は誰でも、社会変動を乗り越えていかなければならず、自分の価値観に従って道徳規範を変えていかなければならない。
 才 人間は誰でも、限らない欲望の種を心に抱えており、それを理性に基づき抑制していかなければならない。



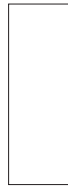
12 「おれはようやくそれに気がついた」(二〇・三)とあるが、「それ」の指す内容として最も適当なものを、次から選べ。 (4点)
 ア どんなに優れた詩を作ったとしても、自分にはその作品を発表する手だてが全くないということ。
 イ 人生は、何事も行わないとすれば余りに長いが、何事かを為すとすれば余りにも短いということ。
 ウ 詩の評価というものは時代とともに変わっていくものであり、その変化に堪えられる作品こそ本物だということ。
 工 自分よりも才能がはるかに乏しい詩人たちは日々切磋琢磨に努めているということ。
 才 自分は努力を怠り、他人から学ぼうとしなかったが故に、自分の才能を空費してしまったということ。



第六段落 (p.21 ㉒1~p.22 ㉒3)

13 「そういうとき……空谷に向かって吼える」(三〇・七)という表現についての説明として適当なものを、次からすべて選べ。 (完答5点)

ア 自分の今の苦境の中で、虎になったという現実を受け入れざるを得ない李徴の悲劇を印象づけている。
 イ 自身の悲劇に向かい合うことができず、わけも分からずにもがき苦しみながらも、力強く生きる李徴の姿を表している。
 ウ 詩の世界を極めようとして夢を果たせなかった李徴の心が、「山の頂」で「空谷」に向かって吼える姿に示されている。
 工 獣たちや樹々に自分の苦しみを分かってほしいと思う一方で、その気弱さを見抜かれることを恐れる心が表現されている。
 才 百獣の王たる自分の力を誇示しようとして吼える姿には、生き物に自分への畏怖の念を抱かせたいという思いが表れている。



14* 「おれが人間だったなら」(三三・五)とあるが、李徴は「人間」をどのようなものと考えているか。四十字以内で説明せよ。 (8点)

40	
----	--

15* 「再びその姿を見なかった」(三三・4)の表現上の効果として最も
も適当なものを、次から選べ。 (4点)

- ア 人間の弱さや悲しさは克服できるということを暗示している。
- イ 虎としてたくましく生きていく李徴の決意を象徴している。
- ウ 人間が虎になることなどありえないという事実を描いている。
- エ 草むらには何が潜んでいるかわからないことを示している。
- オ 人間とは別の世界で生きていく李徴の悲しい運命を表している。

段落・文章構成を考える

16 次の空欄に、本文中から適当な語句を抜き出して入れよ。(各2点)

- ① 李徴の発狂
- ② 袁孝と虎(李徴)との出会い
- ③ 李徴の告白

① 虎になった理由――なぜこんな運命になったか分からぬ

↑

② 虎となった現在の気持ち

↑

胸を灼かれるような
悲しみや苦しみを誰かに分かってもらいたい
誰も分かってくれない

③ 李徴の願い――記憶にある詩数十を伝録してほしい

↑

が飢凍しないようにしてほしい
このことのほうを先にお願ひすべきだった(e)
的な調子

4 李徴(虎)と袁孝の別れ

主題を考える

17 「白光を失った月」(三三・3)が象徴するものについての説明として最も適当なものを、次から選べ。(6点)

- ア 朝の訪れを告げるその月の色は、親友袁孝と二度と会うことができないと知った李徴の後悔を表している。
- イ 光を失った月のように、まもなく人の心を失って虎になりきることになる李徴には、もう詩人としての希望が残されていないことを表している。
- ウ 朝日に象徴される袁孝とは違い、白い月のように存在感のない世界で生きる李徴がいだくかな希望を表している。
- エ 孤高を象徴する断崖の虎ではなく、道の上で咆える虎の姿に月を重ねて、まもなく命を失うことになる李徴を表している。
- オ 李徴と袁孝の心をつないできた月が色あせたと示すことで二人の衝突を表し、決してわかり合えない二人を象徴している。

18 李徴は自身が虎になった原因をどのようなことだと述べているか。七十字程度で説明せよ。(10点)
